

2019年度 支部長挨拶



関東甲信越支部
支部長
藤沼 傑

2016年6月の総会にて支部長を拝命いたしまして、2期4年を終えました。この4年間、多くの会員の皆様からのご指導を頂き、感謝を申し上げます。

2019年度は昨年度に決めた方針に基づき、県域の地域会と都内の地域会の課題を分けて議論する事から始めました。7月から都内の地域会と事業調整WGを3回開催し、都内地域会の課題、今後の活動方針について情報共有ができました。その後の協議を経て、各地域会が社会に発信する各種提言は支部HPに掲載するようにし、情報連携を強化しました。他方、地域会の高齢化に対する抜本的な対策は少なく、JIA会員であるメリットをどのように伝えていくかという課題が残った印象です。

2019年度の支部新規入会会員数は正会員25名、専門会員2名、ジュニア会員7名、個人協力会員1名、法人協力会員12社です。昨年より少ない人数でしたが、合計35人12社は少なくはなく、JIA活動の意義はあると感じています。他方、会員総数が減少している影響は依然として強く、縮小する財政事情において、今後の活動をどのように維持していくのか、活発な議論を行うため、地域サミット委員長合同会議は、小グループに分かれて議論するというワールドカフェ方式で開催しました。



この形式で開催した第1回目の7月の時は、その後に会員集也会も開催し、各委員会の活動紹介や、新会員の活動も紹介でき、有意義な情報共有ができました。11月にも同様の形式で開催し、3月の第3回で今後の具体的な活動方針を討議する予定でしたが、中止となってしまい、誠に残念です。このワールドカフェ方式は、大勢の人が闊達に議論できる優れた方式ですが、まさに三密の状態であるため、今後は新常态に対応した方式を模索することになります。

この1年は、今までにない災害、台風と新型肺炎がJIA活動に大きく影響しました。フレンズカップは、台風の大雨により、会場へのアクセス道路が陥没するなど2月に延期しましたが、その2月も新型肺炎により中止となりました。1月21日に開催した新春の集いは六鹿会長と岩村和夫氏により、SDGsとJIAの取り組みについてご説明を頂きましたが、それ以降のイベントは殆どが中止となりました。



本年度から正式に支部事業として認定した子供空間WSは、2月29日に八王子市立由井第2小学校が最後となりました。6年生の子供たちはこの日が小学校に登校する最後の日となり、完成した作品の中でいつまでも楽しそうに談笑していました。

緊急事態宣言が発令されてから、地域会代表や委員長に影響をヒアリングし、その結果を本部にあげ、本部は他の建築団体と共に国土交通省に要望を提出しました。3月末時点でのヒアリングでは、マイナスの影響はまだ顕著になっていないが、今後の不況に対する不安が非常に大きいと感じました。WEBによるメリットを指摘する人も多く、我々が創造する空間の豊かさの重要性が再認識されているという意見もありました。その後、日々状況が変化し、我々の考えや知見も毎日のように変化するという新常态になったのは皆様のご承知のとおりです。

このような大変な状況下でも、東京都学生卒業設計コンクールがWEB審査により開催しました。模型審査はどうするかという議論もあったようですが、学生にとっては十分に有意義なイベントになったと思います。

最後に、2018年大会でコンペを実施した品川区大井町駅前のトイレが漸く駅前に立ち上がったことをご報告します。

この1年間の皆様の活動、ありがとうございました。